

[特別企画1] 第1部

初回献血者の対策 ～初回献血者をいかにリピーターにするか～

櫻井 聰, 木村壽男, 近藤修康, 廣江善男, 古谷野智, 松田 清, 内藤一憲, 富田徳子, 川元勝則, 池田和眞
岡山県赤十字血液センター

はじめに

少子高齢化の進展により、定期的な献血に協力が得られる献血者を新たに見つけだすことは困難になると推測される。献血推進担当者にとって、初回献血者の確保と初回献血者を次の献血に繋げることは、将来の血液事業を支えていく上で重要な課題である。今回、平成23年度以降の初回献血者数とリピート率、および平成24年度以降の初回献血者確保対策への取り組みについて報告する。

1. 初回献血者の現状

岡山県の初回献血者数の推移を年代別に比較すると、平成23年度以降10歳代、20歳代は増加傾向を示していたが、平成27年度は全世代で減少した。なお、初回献血者の占める比率は、平成23年度以降、10歳代は60%、20歳代は20%を維持したが、平成27年度はそれぞれ56.6%、19.4%に減少した。30歳代は6.8%を維持し、40歳代以上は徐々に減少した。

平成27年度の初回献血者率(図1)をブロック(以下Bと略す)単位で比較すると、10歳代の初回献血者率の全国平均は51.4%で、東海北陸B、近畿B、中四国B、九州Bが平均を上回っていた。20歳代の全国平均は14.9%で、東海北陸B、近畿B、中四国B、九州Bが10歳代と同様に平均を上回っていた。30歳代の全国平均は4.9%であり、近畿Bが5.5%と最も高く他ブロックはほぼ同率で推移した。

一方、年代別の人団あたりの献血率(以下献血率と略す)を同様に比較すると、10歳代では北海道B、東北B、関東甲信越Bが高く、これらのブ

ロックではリピーターが多いと推測された。20歳代では北海道B、東北Bが高い傾向にあり、30歳代では北海道B、東北B、中四国B、九州Bが高い傾向であった。

2. リピーターの現状(図2)

岡山県の初回献血者を追跡調査し、リピート率を算出した。リピート率は、初回献血者が献血初年度および翌年度に献血の実績が確認された場合をリピーターとして算出した。対象期間が年度であるため、3月31日と4月1日の献血では1年の差があり、最短1年、最長2年であった。

10歳代の初回献血者のうち、平成23年度のリピーター数は632人、リピート率は31.6%であった。リピーター数は平成25年度の1,081人、リピート率は平成24年度の35%をピークにそれぞれ平成26年度は909人、27.2%まで減少した。

20歳代の初回献血者については、リピーター数は平成23年度の861人から平成25年度の915人まで微増したが、平成26年度は705人に減少した。リピート率は平成23～24年度は28%であったが、平成26年度には20.3%まで低下した。

30歳代の初回献血者では、平成23年度のリピーター数は466人で、以後年々減少し、平成26年度は296人であった。リピート率は平成24年度まで29%台であったが、平成26年度は22.4%に低下した。

3. 初回献血者の確保対策

(1) 献血との触れ合い

岡山県では平成24年度から積極的に赤十字出前講座に取り組み、各種団体等を含め平成27年

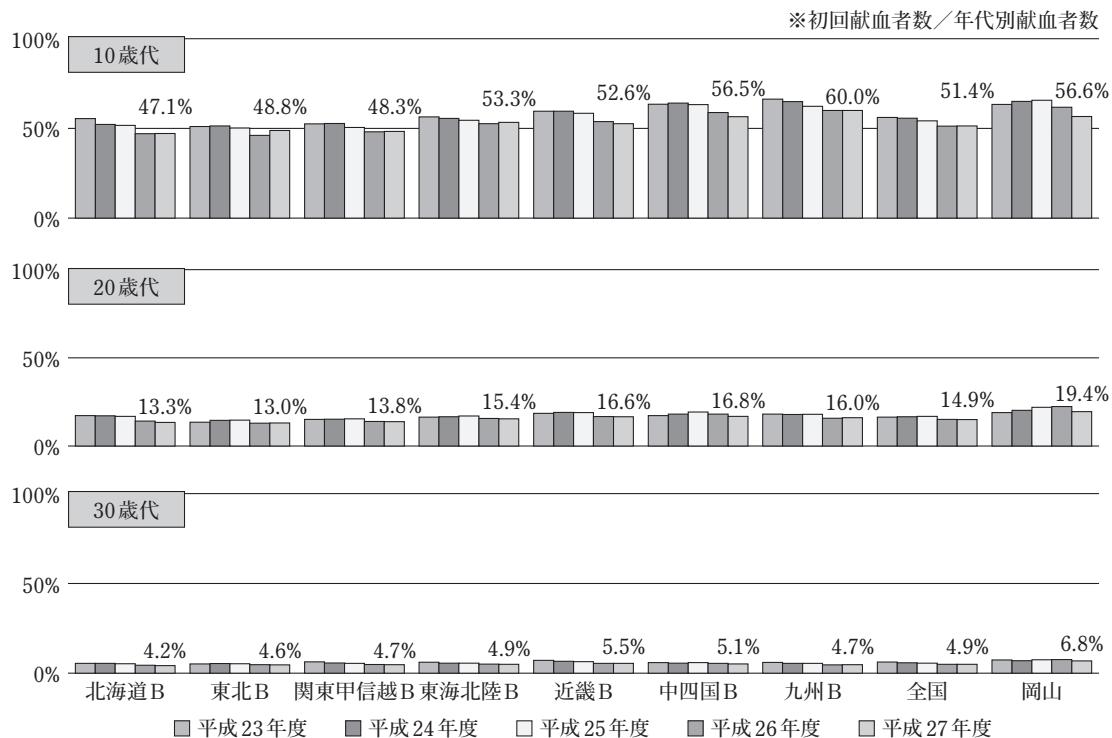


図1 初回献血者率推移(ブロック別)

度は85回開催し、8,300人の参加を得た。高校での出前講座を実施後、年々献血実施校も増加し、平成27年度は14校の協力を得た。また、献血実施は不可であるが、模擬献血の実施を要望された高校について、平成28年度は6校で実施しており、献血に触れ合う機会を増やすことができている。

(2) ライオンズクラブの協力

幅広い人脈を持つライオンズクラブに対して、平成24年度から専任の専門担当者を配置して取り組んだ結果、ほぼすべてのクラブで献血推進活動に協力を得ることができ、例会などで普及啓発への協力を呼び掛けている。また、個々のクラブに加えて、平成27年7月には岡山と鳥取を管轄するライオンズクラブ336-B地区と献血推進2020を基に連携協定を結ぶなど、協力関係をより強固にしている。

(3) 次世代献血者への取り組み

中長期的な対策として、次世代の献血者にも啓発活動を行っている。就学前の児童や小学校低学年を対象としたキッズ献血は、学生献血推進連盟S.B.D.Momoが主体となり、4年間で延べ5,935人の児童・生徒に楽しく経験していただいた。保護者らが自ら献血するという効果もあった。また、小学校高学年を対象とした夏休み親子見学会では、クイズを出題するなど、親子で楽しく献血について学び、関心を持っていただく機会となっている。

(4) 固定施設への誘導

固定施設近隣の大学や専門学校等の学生献血者には、固定施設までの送迎を行い、また、各団体等において固定施設で期間を決めて実施している「献血WEEK」の実績では、各年代で初回献血者が多く、まだまだ幅広い世代に献血を広げる余地があることが示唆された。

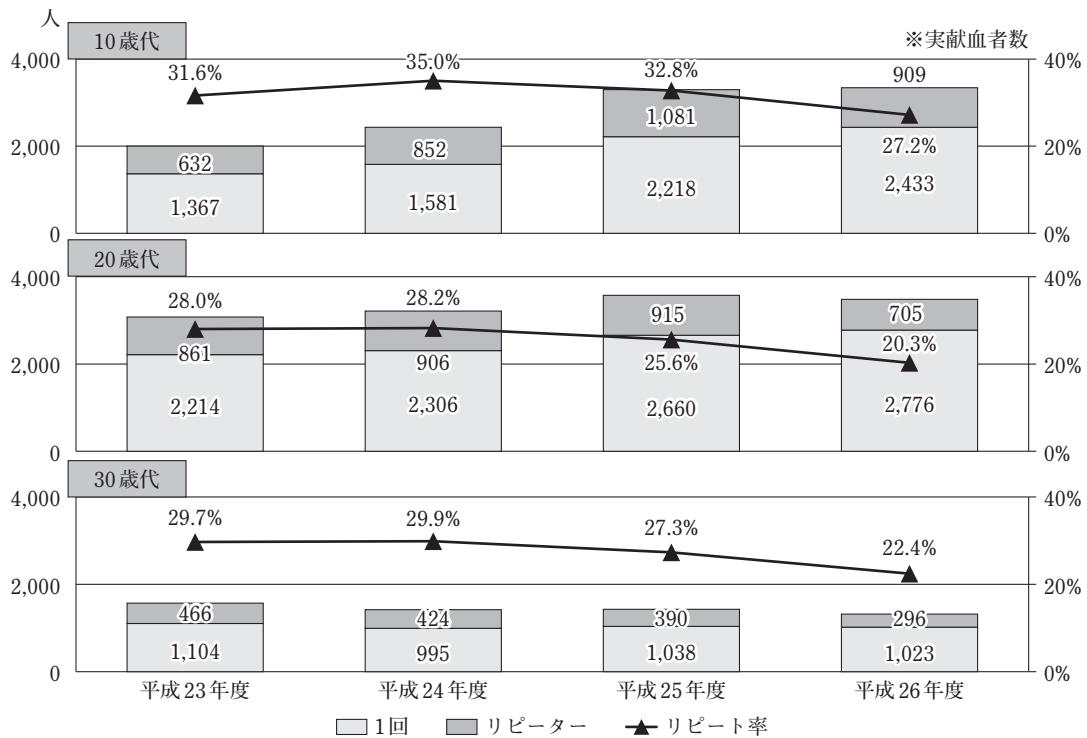


図2 初回献血者の追跡調査(岡山県)

まとめ

岡山県の初回献血者率は約1割であったが、全国平均以上であったことから、これまでの取り組みは一定の成果があったと考えられた。しかし、すべての年代で初回献血者数が減少し、初回献血率と人口あたりの献血率が低下しており、課題も明らかとなった。引き続き学生、団体等には献血セミナーの継続、企業の担当者には若年者の献血への積極的な参加を呼び掛けることが重要と考えられた。また、若者から若者へ呼び掛けることは有効であり、岡山県学生献血推進連盟S.B.D.

Momoの積極的な活動が今後も期待される。さらに中長期的な対策を講じながら初回献血者の確保に努めたいと考える。

高校、大学、専門学校へは引き続き学内献血を依頼し、さらに近隣の大学、専門学校などは固定施設への送迎により献血の協力を得られるよう努力したいと考える。

また、固定施設でのみ実施しているサービス等を広く県民に広報することにより、リピーターになる傾向の高い固定施設へ誘導することが今後の血液事業を支えていく上で重要と考える。